

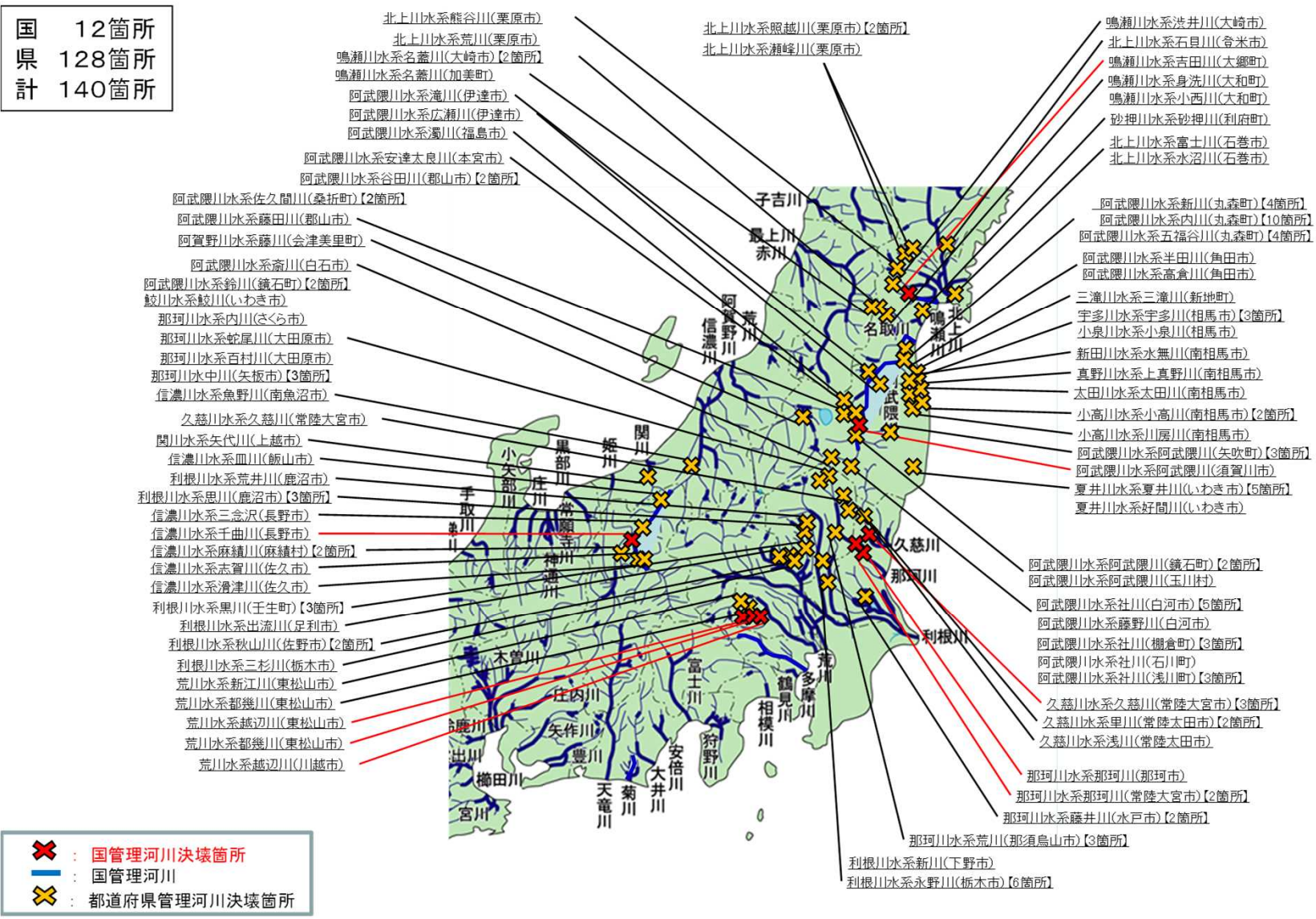
台風第19号による堤防決壊発生箇所

[国管理河川] 堤防決壊12箇所 10月20日に12箇所全ての仮堤防が完成。
 11月8日までに12箇所全ての補強工事が完了。

[県管理河川] 堤防決壊128箇所 11月8日までに128箇所全ての仮堤防が完成。
 うち36箇所では国の権限代行による復旧工事を実施。

堤防決壊箇所一覧(11月9日時点)

国 12箇所
 県 128箇所
 計 140箇所



: 国管理河川決壊箇所
 : 国管理河川
 : 都道府県管理河川決壊箇所

台風第19号による土砂災害発生状況

土砂災害発生件数

953件

土石流等：423件

地すべり：44件

がけ崩れ：486件

【被害状況】

人的被害：死者 16名
 行方不明者 1名
 負傷者 10名
 人家被害：全壊 37戸
 半壊 75戸
 一部損壊 175戸

10/13
土石流等

いぐ まるもりまち
宮城県伊具郡丸森町



死者：4名
行方不明者：1名

10/12
地すべり

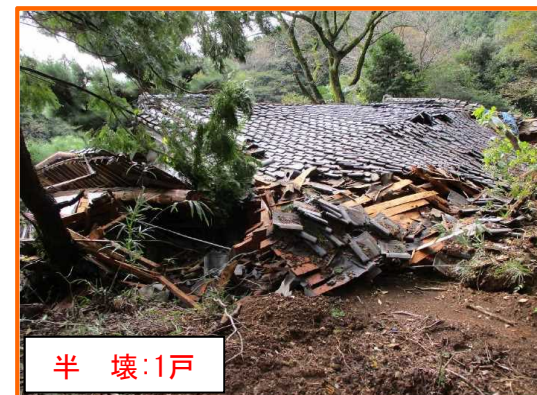
とみおか たくみ
群馬県富岡市内匠



死者：3名、負傷者：3名
全壊：1戸、半壊5戸

10/12
がけ崩れ

とちぎし つがまち おおがき
栃木県栃木市都賀町大柿

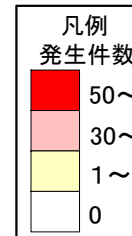
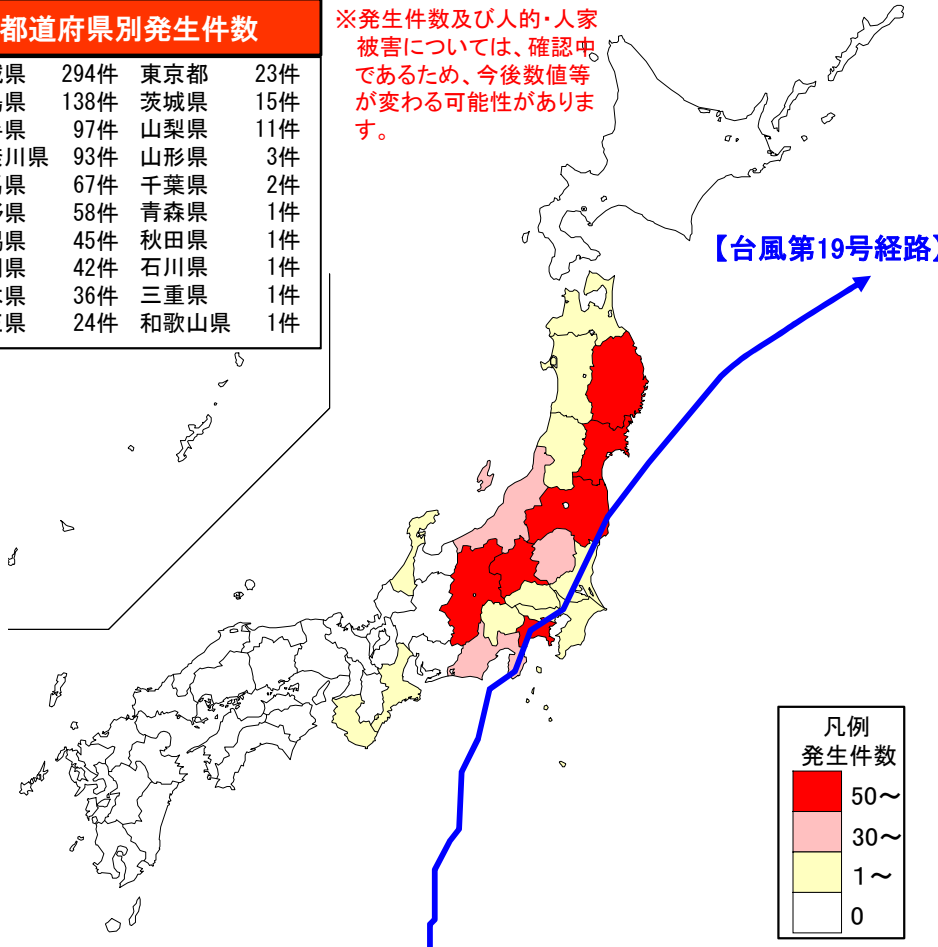


半壊：1戸

都道府県別発生件数

宮城県	294件	東京都	23件
福島県	138件	茨城県	15件
岩手県	97件	山梨県	11件
神奈川県	93件	山形県	3件
群馬県	67件	千葉県	2件
長野県	58件	青森県	1件
新潟県	45件	秋田県	1件
静岡県	42件	石川県	1件
栃木県	36件	三重県	1件
埼玉県	24件	和歌山県	1件

※発生件数及び人的・人家被害については、確認中であるため、今後数値等が変わる可能性があります。



10/12
がけ崩れ

さがみはら みどり まぎの
神奈川県相模原市緑区牧野



死者：1名
負傷者：2名
全壊：5戸

10/12
土石流等

みやこ しらはま
岩手県宮古市白浜



全壊：7戸
半壊：15戸

10/13
地すべり

いといがわ ひがしつか
新潟県糸魚川市大字東塚



10/12
がけ崩れ

にほんまつ どうめき
福島県二本松市百目木



死者：2名
半壊：1戸

令和元年台風第19号へのTEC-FORCEの派遣

○各地方整備局等TEC-FORCEが、東北、関東、北陸地方の被災地で活動中

【TEC-FORCE】のべ 22,930人・日派遣 (リエゾン、先遣班、応急対策班、被災状況調査班、防災ヘリ、高度技術指導班等)

【災害対策用機械】のべ 12,384台・日派遣 (排水ポンプ車、照明車、衛星通信車、散水車、路面清掃車等)

○TEC-FORCEの活動の円滑化・迅速化を図るため、体制・機能の拡充・強化に取り組む。

(11月14日時点)



10月22日 茨城県日立市における
道路施設の被災状況調査【中国地整・道路班】



10月23日 長野県長野市におけるドローン
による被災状況調査【北陸地整・砂防班】



10月24日 長野県長野市における
路面清掃作業【北陸地整・応急対策班】



10月26日 大崎市長(宮城県)に排水作業の
完了報告【東北地整排水支援チーム、中国地整】



10月27日 孺恋村長(群馬県)に
調査結果を報告【九州地整・道路班】

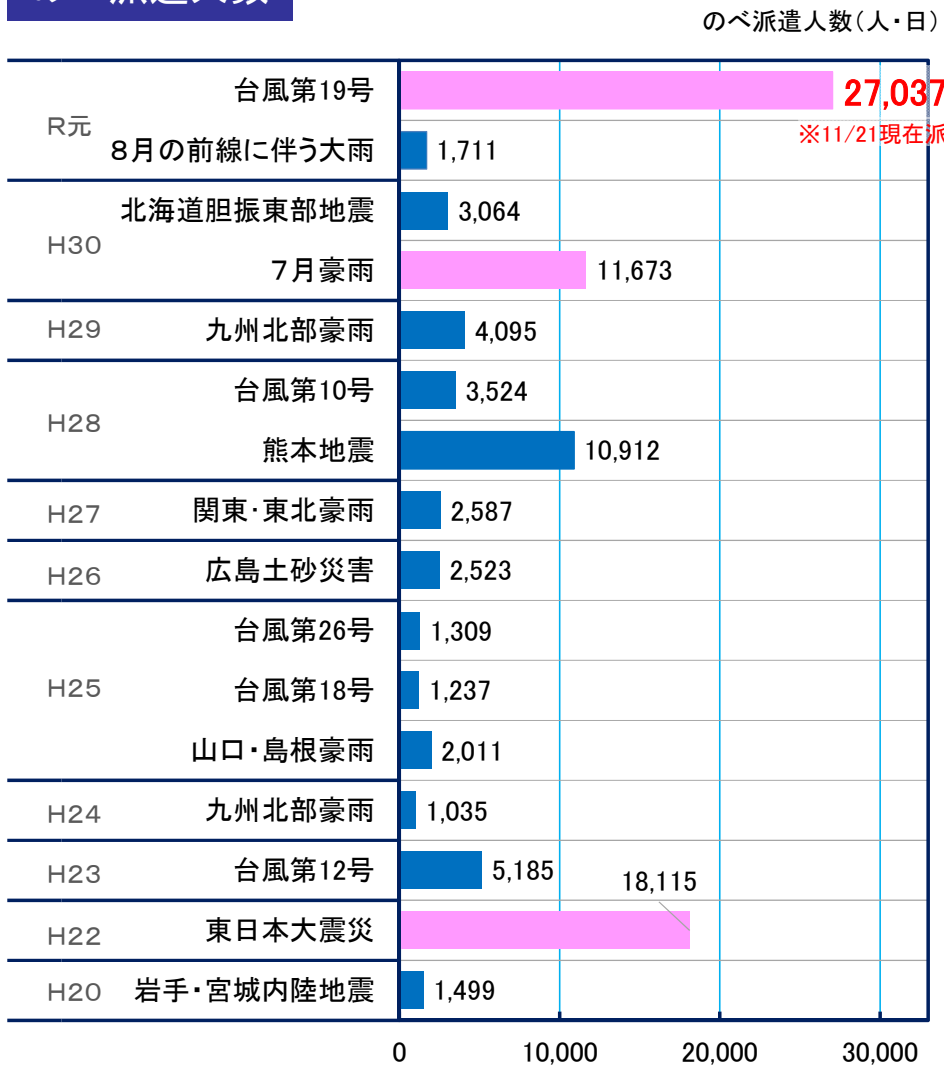


10月30日 宮城県丸森町における給水支援
【北海道開発局・応急対策班(給水支援)】

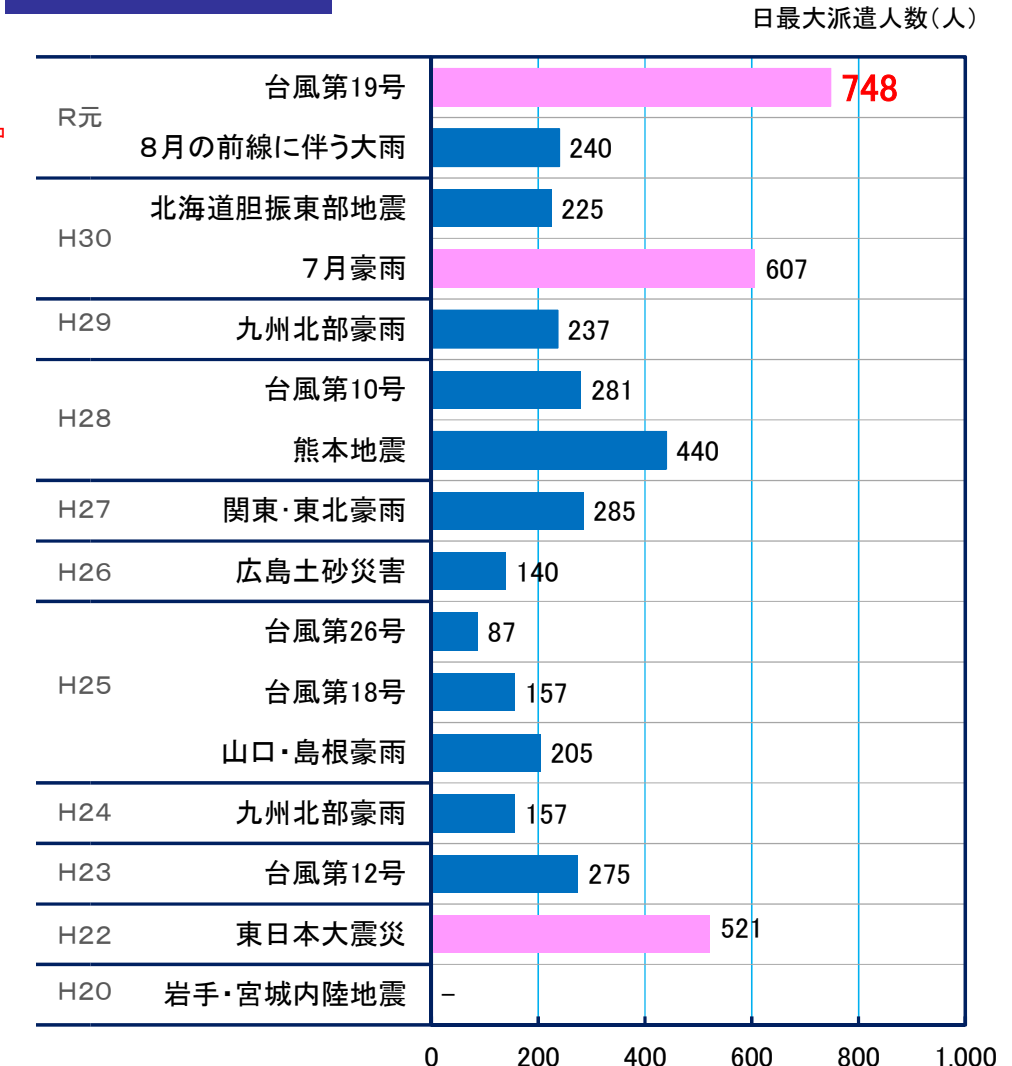
TEC-FORCEの派遣実績(主な災害別)

○**令和元年台風第19号**への派遣実績は、のべ派遣人数、日最大派遣人数ともに、**過去最大**。
 広域かつ同時多発的に発生した水災害においても、被災地方公共団体を支援。

のべ派遣人数



日最大派遣人数



※ 上位3位の災害を桃色で着色

台風第19号における狩野川放水路の治水効果(速報)

- 狩野川放水路は昭和23年のアイオン台風を契機として昭和26年に着工し、その後、昭和33年の狩野川台風による甚大な被害を受けて計画を見直し、昭和40年に完成しました。**(事業費約300億円(現在価値))**
- 今回の令和元年台風第19号は、狩野川流域に対して、**狩野川台風よりも多くの雨**をもたらしました。
- 今回、放水路直上流にある千歳橋流量観測所で約2,060m³/sの流量を観測しましたが、このうち約1,000m³/sを放水路で分派したことにより、**分派下流地点の沼津市や三島市等を流れる本川水位を低下**させることができました。
- 昭和33年狩野川台風では、狩野川流域において死者・行方不明者853人、家屋浸水6,775戸の甚大な被害が発生しましたが、今回の台風第19号では、**狩野川本川からの氾濫を防ぐことができ、人的被害をゼロ、家屋の浸水被害も内水等による900戸に抑えることができました。**

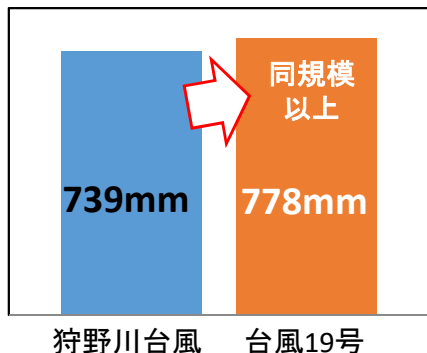
狩野川台風との比較 (総雨量)

総降雨量

■狩野川台風 (昭和33年9月)
湯ヶ島雨量観測所で**739 mm**

■令和元年台風第19号
湯ヶ島雨量観測所で**778mm**

※今回の洪水で流域最大



狩野川台風 (昭和33年) の被害と今回の被害の比較

■狩野川台風 (昭和33年)

死者・行方不明者：853人
堤防決壊：14箇所、
家屋浸水：6,775戸

■台風第19号 (令和元年)

死者・行方不明者：0人
堤防決壊：0箇所
家屋浸水：約900戸※
※家屋浸水は内水等による被害

⇒狩野川本川の越水を防ぎ、
人的・物的被害を軽減



狩野川台風(昭和33年)による浸水被害の範囲

平常時

今回の洪水

伊豆の国市 狩野川放水路1.0k 長家橋

狩野川放水路により、約1,000m³/sの洪水を分派し
本川の流量を低減

台風第19号における利根川上流ダム群※の治水効果(速報)

- 利根川の治水基準点である群馬県伊勢崎市の八斗島地点^{やったじま}の上流においては、利根川上流ダム群※において、約1億4,500万m³の洪水を貯留しました。
- これらのダムの貯留により、八斗島地点では、約1m(速報値)の水位が低下したものと推定されます。

※利根川上流ダム群: 矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、相俣ダム、菌原ダム、下久保ダム、試験湛水中のハッ場ダム

本資料の数値等は速報値のため、今後の調査等で変更が生じる可能性があります。



ハッ場ダム貯留状況写真



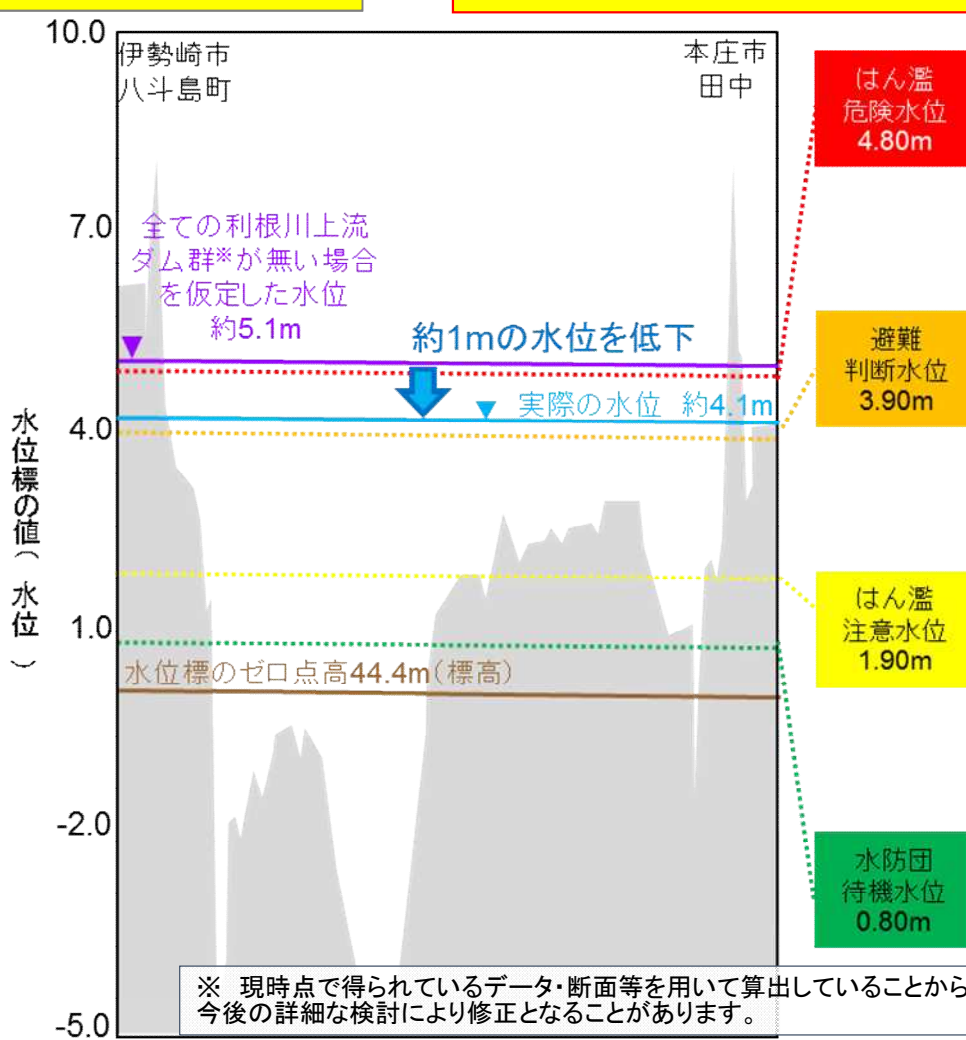
10月11日 状況写真



10月15日 17:00 状況写真

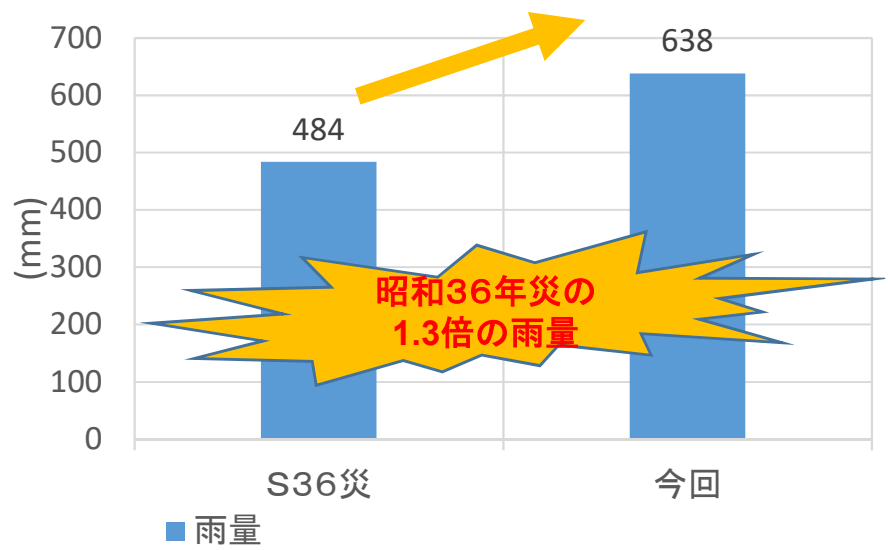
ダムの効果(八斗島地点)

利根川上流ダム群※により約1m水位を低下

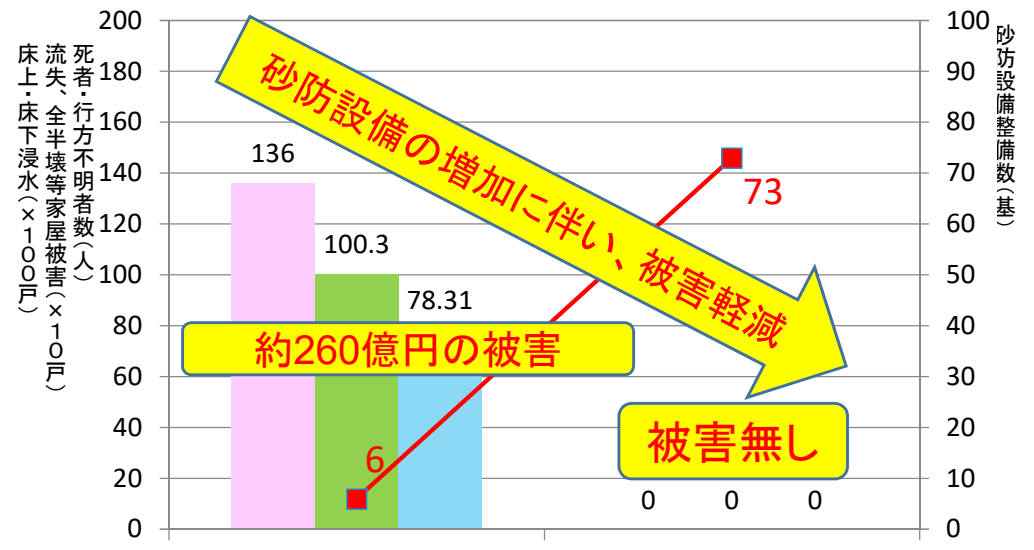


- 令和元年10月 台風19号により、戦後最大の災害「昭和36年災」を超える638mmの総雨量を観測、流域の美和ダムでは効果を発揮。
- 昭和36年災では136名の死者・行方不明者、8800戸を超す家屋被害が発生したが、その後の着実な砂防堰堤整備により、土砂洪水氾濫を完全に防止。
- 昭和36年災以降の砂防の設備投資約330億円により、流域の約870億円の資産に対して被害を軽減。

昭和36年災における総雨量の比較



昭和36年災の出水の被害状況と今回の比較



砂防堰堤の整備により被害無し



■ 死者・行方不明者(人)
■ 流失、全半壊等家屋被害(×10戸)
■ 床上・床下浸水(×100戸)
■ 砂防設備整備数(基)

※砂防設備整備数は三峰川流域の直轄分の集計
 ※被害状況は天竜川流域(長野県)の集計(天竜川水系河川整備計画より転載)
 ※総雨量は三峰川流域での最大の雨量観測所の値(S36は非持、今回は北沢)
 ※被害額は上伊那地域の被害額を現在価値に換算したものの
 ※資産(便益)は1/100洪水時の被害から計算